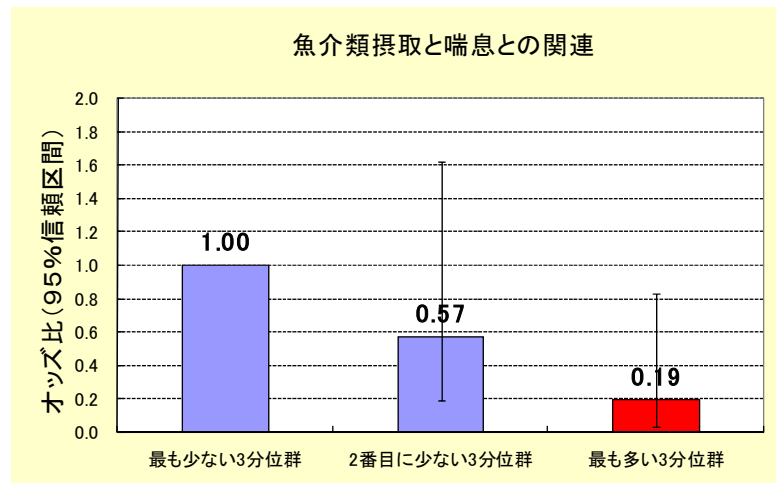


大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 魚介類、脂肪酸の摂取と喘息有症率との関連

背景：魚介類や魚介類由来の $n-3$ 系不飽和脂肪酸摂取が喘息に予防的であるかどうかは未だ議論が続いています。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した 1002 名の妊婦さんを対象としました。最近 1 年の間に喘息の投薬治療を受けた場合を喘息ありと定義しました。交絡因子として、年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、喫煙状況、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の家族歴、屋内のペット、家計の年収、教育歴、寝具のダニ抗原量、BMI、過去 1 ヶ月の食事変容、季節を補正しました。

結果：最近 1 年喘息の有症率は 2.1% でした。摂取量によって 3 等分すると、最も多く魚介類を摂取している群は、最も少ない群に比較して、統計学的に有意に喘息の有症率が低くなりました。 $n-6$ 系不



飽和脂肪酸摂取に対する $n-3$ 系不飽和脂肪酸摂取の比 ($n-3/n-6$ 比) について検討したところ、最も $n-3/n-6$ 比の高い群は、最も低い群に比較して喘息の有症率が有意に低くなりました。しかしながら、栄養素として $n-3$ 系不飽和脂肪酸の摂取を評価した場合、有意な関連を認めませんでした。肉類、乳製品、卵、飽和脂肪酸、単価不飽和脂肪酸、 $n-6$ 系不飽和脂肪酸、コレステロール摂取は喘息有症率と有意な関連を認めませんでした。

結論：魚介類摂取と高い $n-3/n-6$ 比が喘息の低い有症率と関連するのかわかりません。

出典： Miyamoto S, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Matsunaga I, Yoshida T, Oda H, Ishiko O, Hirota Y, The Osaka Maternal and Child Health Study Group. Fat and fish intake and asthma in Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2007; 11: 103-109.